

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

中海の自然再生は、官民一体となって行われています。未来守りネットワークは海草類や魚介類の再生を願って日々活動しています。が、自然界は厳しく、毎年私たちに試練を与えます。

海草類も例外ではなく、特にアマモはコアマモと違って環境変化に強い種ですが、中海では数年単位で衰退と繁栄を繰り返しています。現在調査中ですが、はっきりとしたことが分かっていないのが現状です。ところで皆さんは「全国アマモサミット」のことをご存じでしょうか。官民一体で、これまでに海辺から失われた海草類の重要性へ

## 浅場の環境

の共通認識を持ち、再生事業に取り組んでいます。このサミットは全国各地の活動報告や有識者を交え、海づくりの提言などをする大会で、国内で毎年一回、都市を代えて開催されています。

第2回全国アマモサミットは2009年11月6、7の西日、国や鳥取、島根両県、米子、境港両市など行政と島根大汽水域研究セン

<12>

## 泳げるほどに水質改善

ター、そして未来守りネットワークが主催し、米子コンベンションセンターで開催。全国から2日間で、延べ約600人が参加しました。このときは「中海の藻場パネルディスカッションありました。ラムサール条



2009年に米子市で開かれた第2回全国アマモサミット

約登録地として、世界に誇れる汽水湖を再生させることを確認しました。中海の水環境はまだ、目に見えないほどには良くなっていません。ですが水深1〜2メートルの浅場の水は、非常にきれいです。風がなく波が穏やかな日には湖底まで見え、海草類やゴズ、アジなどの稚魚が泳ぐ姿を見ることが出来ます。

一般に中海は汚いと思われているようですが、春、夏、初秋の浅場の水質調査では、数年前から人が泳げるほどの水質になっているのです。

ぜひ一度、皆さんも穏やかな日に散歩がてら、中海の浅場をゆっくりとご覧ください。もしかすると新しい発見があるかもしれません。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)